



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.12.1 No.3700

貨物「8000人」体制大合理化 93.3賃動乗勤悪許すな

格差回答徹底弾劾 団結固め闘いぬこう

労使激突の 状況に突入

本紙前号でも明らかにしたように、JR貨物は、今年年末手当てにおいて他のJR各社に比して、大幅な定額回答を行なった。しかも、日貨労、鉄産労は即日これに妥結し、超定額回答を許した。

われわれは、この間、JR貨物が「八〇〇〇人体制」という大合理化攻撃を開始したことを弾劾してきたが、早くもこの年末手当て段階でこれが具体的に始まったことを軽視することはできない。貨物職場の労働者は、超定額回答と大幅な格差に対する怒りをこめて団結をうち固めて闘いぬこう。

九三・三ダイ改は 要員合理化と動乗勤改悪

JR貨物は、すでに九二年度末までに五〇〇名の要員合理化、出向の計画を明らかにし、具体化が始まっている。

そして、次期「九三・三ダイ改」では、時短をからめた合理化、とりわけ動力車乗務員勤務

制度の改悪(一二月にも提案か)が必至となっている。

時短は、「4週7休」で年間休日を九六日から一〇四日に増やそうとするものであるが、要員増を見込んでいないことから、全職種にわたる要員合理化と出向がその前提になっている。

さらに、動乗勤改悪では、これも要員増では対応せず、「東日本と西日本の悪いところを組み合わせた」動乗勤制度改悪が「時短の前提となっている」ことを看過してはならない。

「九三・三ダイ改」「時短」を名目とした全職種にわたる要員合理化、とりわけ動乗勤改悪を柱にしつつ、九三年度にさらに五〇〇人の合理化と出向へ向けた「しぼりだす」ような合理化攻撃との対決になっている。

「次々期ダイ改」は 「全面白紙ダイ改」

その上で、JR貨物は「次々期ダイ改」を「全面白紙ダイ改」と位置付けて、基地の統廃合、営業線区の見直しなども含めた大合理化を狙っている。

すでに本社内に「車扱いプロジェクト」が設置され、「車扱い(コンテナ列車以外の列車)」

を含めた検討が行なわれている。「次々期白紙ダイ改」を見据えた闘いを今から開始しなければならぬ。

大幅格差回答弾劾 格差粉碎闘争に起とう

貨物職場の労働者は直ちに「九三・三ダイ改」動乗勤改悪阻止とともに、格差粉碎闘争に立ち上がろう。

格差粉碎闘争は、分割・民営化反対の今日的闘いである。分割・民営化は六年が経過する中で、JR各社間、さらに各内の地域あるいは職種間など全ての面で様々な格差が発生し、日々拡大している。その最も分かりやすいものに貨物・旅客の問題がある。

そして、資本の側は、つねに労働者を分断し、格差を拡大することで労働者の団結を破壊してきた。従って、今日の事態の原因は、まぎれもなく国鉄分割・民営化の中にある。今こそ要

員合理化との闘いと同時に、格差粉碎の闘いに立ち上がろう。これは労使の全面的な激突に発展する。団結をうち固めて闘いに立ち上がろう。

日貨労解体の闘いを 全ての職場で展開しよう

同時にこれは、日貨労解体の闘いでもある。ついにJR総連・JR東労組は、JR東労組の防衛のためには日貨労を見放さざるを得なくなった。「東日本三・一五」「貨物二・六」。このあまりの格差に、日貨労は窮地に追い込まれている。今こそ全職場からもはや労働組合に値しない日貨労、鉄産労を解体しよう。

「九三・三ダイ改」「次期白紙ダイ改」粉碎闘争へ今こそ総力で立ち上がろう！
貨物協議会は、一月二二日、第二回総会を開催することを決定した。総会の成功をバネに、本格的闘いを展開しよう。

★当面するスケジュール

- 二月二日 津田沼支部定期大会 一六時から
- 便宜供与差別地労委 一〇時から
(五十嵐支部長、笹生支部長が証言します)
- 三日 幕張支部定期大会 一八時から
- 四日 総武支部定期大会 一三時から
- 七日 千葉支部定期大会 一五時三〇分始
- 八日 千葉転支部定期大会 一三時から
- 九日 85・11損賠公判 東京地裁 13時15分から
- 一二日 銚子支部定期大会 一四時から